

特定非営利活動法人レインボーコミュニティcoLLabo設立趣旨書

近年の情報化社会では、人びとの「多様性、多様な生き方」に触れる機会は格段に増えてきました。

しかし、レズビアン(及び性的少数者)は、「異性愛者を前提とした社会」の中で、誤解や偏見に曝されてきているため、精神的な負荷や実生活での苦労は依然として絶えません。

社会全体へレズビアン(及び性的少数者)に関する正確な知識・情報が行き渡っていないことは、当事者自身へも情報が届かないことにつながります。そのため、本来ならば、人間の自然なありようであるセクシュアリティを受容するまでに多大な時間とエネルギーを要しています。

また、家庭・学校・職場・地域・メディアなどあらゆる生活の中で、嘲笑いやがらせなどの不当な扱いを受けたり、またその恐れや不安から、自己否定したり、自らの存在を明らかにできない場面は多くあります。さらに、職業や住まいの将来設計や老後の展望を描くことは難しく、パートナーシップに対する保障はありません。どのように歳を重ね、生きていくかのモデルもなく、模索をしながら常に不安と背中合わせにいます。

こうした現状について、「見えにくい存在で、無きものにされている」ことが重要な問題ではないか、と私たちは考えます。

身近に同じようなひとを見出せないことが、自らのセクシュアリティを自認し受容する難しさや孤立を助長します。どうか安心して語れる場を見つけていただせても、社会的な問題として協働するまでには至らず、社会にその存在は見えにくいまです。

対象として存在が認知されなければ、当然、教育には含まれませんし、行政の施策や制度も整備されようがありません。より良く生きるための制度や社会のしくみのなさは、レズビアン(及び性的少数者)が存在を現すこと、また助けを求める声をあげることを躊躇させ、孤立と「見えにくい存在」は強化され続けていきます。

実際、少数であるとは言え、レズビアン(及び性的少数者)は身近に、当たり前存在しています。

誰が好きか、どこで誰と暮らすか、どのような生き方をするかなどは、基本的な人権として、誰もが安心して語られるべきものです。私たちは、セクシュアリティを隠すことなく、自尊心をもって前向きに生きられる社会を作ることを目指します。

そのためには、レズビアン(及び性的少数者)に対して、孤立を軽減し前向きに生きることを支援するとともに、人生を支える社会資源を開拓する事業を行います。一方、社会に対しては、現実の存在についての認知と理解を深めるため、調査、正確な知識・情報の提供、提言等を行い、他団体とのネットワークを構築します。こうした取り組みは、社会全体の公益に資するものと考えます。

2009年9月、レズビアン(及び性的少数者)に向けた活動をおこなう任意団体「coLLabo(こらぼ)」を発足し、賛同者・支援者の開拓と、孤立しがちなレズビアンが安心して集えるスペースの環境を整備してきました。2010年3月からは、賛同者の交流企画を実施するとともに、4月よりスペースを活用したプログラムを定期実施し、ピアサポートや相互の生涯学習を試行してきました。

こうした取り組みの傍ら、活動の継続性と安定性のために、2010年5月より、特定非営利活動法人の設立に向けた準備を開始してきました。このような活動はまだ取り組みも限られており、先駆的で社会的意義の高いものです。活動を公開し透明性をもって、市民のみなさんに支えていただきながら、社会的信用をもった組織運営を行うことが望ましいと判断しました。そのためNPO法に基づく法人格を取得し、ここに、特定非営利活動法人レインボーコミュニティcoLLaboを設立いたします。

平成22年10月30日 特定非営利活動法人レインボーコミュニティcoLLabo 設立総会